

副校長先生 インタビュー号

実は一般企業出身!?! 副校長先生の素顔



校長室にて（令和六年七月撮影）

副校長先生は こんな人

M…副校長の専門って文系？
理系？どんな専門領域なんで
すか？

副…私は理科系なんです。元々
オリンピックという会社でシステ
ムエンジニアをしていたんです。

高校時代は理科系ブームだった
ので、その流れに乗ってしま
って…。大学が情報工学専攻
だったのですが、当時は、コン
ピューター専門の仕事はあんま
り好きじゃなくて。「コンピュ
ター専門の仕事はやりたくあり
ません」なんてね、当時の情報シ
ステムの部長さんに向かって生
意気なこと言ったりして。
M…先生にもそういう時代が
あったんですね（笑）
副…相手が誰かも知らないか
ら、言いたい放題言っちゃた
けど（笑）。それでシステムエン
ジニアとしてシステムの開発とか
やっていましたよ。
M…そんなお仕事されていたの
に…学校ってガラパゴスみたい
なところあるじゃないですか。すご
く気になりますか？
副…全然畑違いですよ。
M…畑違いで、なぜまた教員に
なろうとされたんですか？
副…元々中学校の頃金八先生
とか熱中時代とかをテレビで
見て、教師に憧れていたんでしょ
うね。性格から言うとうちには
中学より小学校の方が合ってい
ると思って。エンジニアとしては
毎日毎日、科学技術計算という
難しいことやっていたんですけど、
それがあまり自分には合ってい
ないなと思ったんです。どちらか
と言うと、もっと人と関わるよう
な、そういう仕事をやりたいかっ
た。そこで昔思い描いていた教

員を目指したいという気持ちに
つながったのでしょね。

M…それで小学校教員へ？

副…いや、その時は社内ベン
チャーのような感じで、社内の新
しい職場にいくつか異動して働
いていました。そんな中、入社当
初に一緒に働いた先輩が「わく
わく科学体験教室」というのも
を始めて。私は光技術を使っ
たいろんな開発や研究をやっ
たので、それを使って 子供たち
にいろんな実験を見せてあげ
たら喜ぶんじゃないかと思って。

それで一緒に八王子市内のいろ
んな小学校を回るようになった
んです。子供たちが喜ぶことを
やりたいと、その活動を通して
教員への思いが溢れ出して。技
術者をこのままやるのも面白い
かもしれないけど、もっと子供
たちと楽しいことをできないかな
と思って小学校の教員を目指
したんです。ただ小学校の免許を
もっていなかったので、通信教育
の大学へ通い始めました。

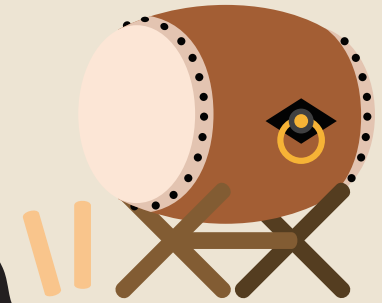
M…それが何歳の頃ですか？

副…三十八歳で教員試験に受
かって、三十九歳で新任でした。

M…同期は大学卒業したてで、
二十三歳、二十四歳が多い中、
ギャップがあったのではないで
すか？

副…ジェネレーションギャップは、
ありましたね。当時は教員も狭
き門でした。ちょうど二〇数年
前ですね。

副校長先生のこと



Hobby

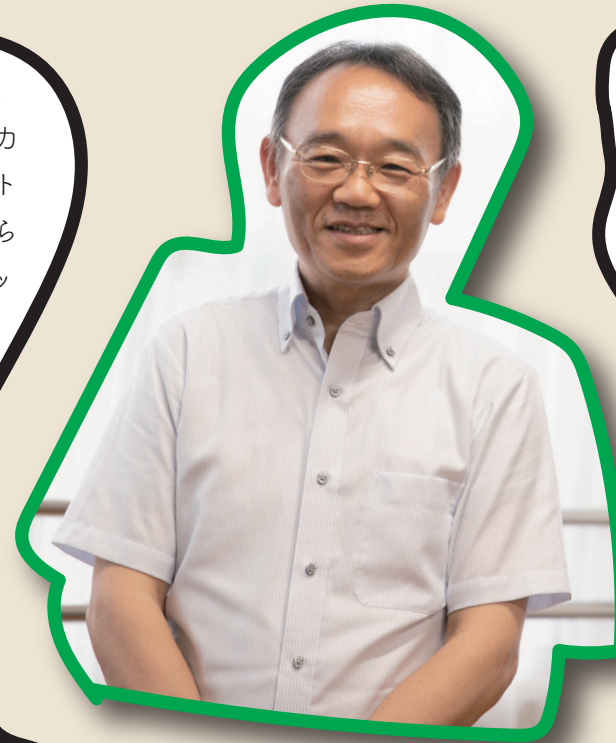
少年野球をやっていた小学校時代。

中学校入学ではバスケ部入部…から一転、吹奏楽部へ。新潟県は吹奏楽が盛んな地で、音楽の先生も吹奏楽に力を入れている方だった。小学校の鼓笛隊でトランペットをやらせてもらって、ハイトーンの高音を小学生ながら出せるように。中学校では吹奏楽部に入り、テナーサックスを担当しますが、その後、引越しにより転校。しかし、転校先の神奈川県の中学校は吹奏楽…という名の音楽部だったことに失望した山川少年。高校時代は神奈川県内の吹奏楽の強豪校で、テナーサックス…と思いきや、反抗期真っ只中の山川少年はチューバをやりたい！と言い出すことに。。

体格的にもチューバ向きではない！というハンディキャップも、必死の練習で高校1年生からレギュラーとしてコンクールにも出場。

その後、学生指揮者を経験し、大学時代、社会人時代と吹奏楽と長い付き合いをしていくことに。

そして多趣味な山川先生は吹奏楽ばかりではなく、劇、アイススケート、和太鼓も嗜んでいらっしゃるのだとか。「私も経験者です！」なんて保護者の方は、是非ぜひ山川先生と趣味の話で盛り上がってみてはいかがでしょうか？



History

生まれは新潟県上越。

お父さんが転勤族で新潟県の後に石川県金沢市、神奈川県相模原市、新潟県上越市、小田原市で、最後に父親が家を建てたのが伊勢原市。

八王子市はオリンパス時代から始まって、直近25年ほど住んでいる。

Career

オリンパス(17年間)

府中市立日新小学校

宮上小学校

東京都立八王子特別支援学校

再び宮上小学校

町田市立小山田小学校

八王子市立高尾山学園

宮上小学校に副校長として着任

現在に至る

宮上小学校3回目の「今」をどう見るか

M: 地域や学校によって、子供たちや子供たちを取り巻く環境って違うものですか？

副: 地域や学校によって環境も教育内容も変わりますね。例えば私が勤めていた宮上小学校と高尾学園は環境も教育内容も異なります。でも子供たちは、どこの学校でも一緒ですよ。それぞれの地域や学校に合わせた関わり方があるという点で、学校ごとにちょっとずつ違っていきますね。子供って基本的な部分は変わらない。

M: 宮上小学校は3回目の着任ですが、学校の雰囲気はそれぞれ違いますか？

副: やはり時代とともに変わっていますね。今は共働きのご家庭が増えてきて。みやかみ会さんも、いろいろと係などの在り方を見直してくれていますよね。お仕事をしながら保護者の方が無理なく関わっていただくためにも、もうちょっとスリムにできないかという風になってきたと思います。今までもこうやってきたから、同じようにこうしましょう…と、ずっと踏襲されていたように思います。それはみやかみ会だけではなく、運動会などの学校行事の面でも同じで。コロナ前までは、運動会も1日やっていましたもんね。本当につい最近まで。でもコロナをきっかけにして、だいぶ考え方が変わってきました。

M: 本当にこの4年ほどで、一気に変わりましたね。

副: ガラッと変わりました。たくさん情報端末も入ってきましたし。YouTube配信とかもやりましょうということになりましたし。今までは、なかなかICT(情報通信技術)の活用が進まなかった時代もあった。でもコロナをきっかけにできる、できないではなく、やらざるを得なくて皆必死にやったんです。

M: 言いづらいかもしれませんが…何かがネックになっている感じはありますか？

副: 会社などに比べると遅れている感じはありますが…でも、いろいろと事情もありますしね(笑)

M: 先生って理系でいらっしゃるし、企業ではかなり合理的にやってきましたでしょうから。なかなかの対応力ですね(笑)

副: (教員に) なりたかったの、それでいいと思っています。どっちが良いとか悪いとかじゃなくて。

M: 合理的な切替というか。うん、なるほど。なかなかできないけど、見習いたいです。

副: もし今神様が降りてきて、君の命は明日までだって言われたら、後悔がないようにやりたいことをやればいいじゃんという感じですね。

M: ちなみに今は後悔ないですか？(笑)

副: それは…それでね(笑)

副校長としての山川先生



M…管理職は希望されてなったんですか？

副…元々管理職をするつもりはありませんでした。現場で子供たちと楽しくやっていたいなと思っていました。最初はクラスだけを見ていれば良かったんですが、そのうち学年も見られるようになって。学年から学校全体を見るようになって。現場で先生方を支える誰かがいないと学校って回っていかないのかなと思うようになって。誰かがやらないといけないんだったら、自分が…と。ある程度年齢も重ねてきていたので、管理の仕事をやってみようと思ったのがきっかけですね。

これからの山川先生・これからの宮上小学校

M：先生、今でもわくわく科学体験プロジェクトってやりたいですか？

副：できればやりたいと思います。今もオリンパスの仲間とつながってますし。でも今はちょっと本業が忙しくて、なかなか時間がなくて…。

M：是非いつかやりましょうよ、それ。

副：声をかければおそらく仲間も集まってくれるだろうし、私も1コーナー担当したりもできる。

M：先生はどんなコーナー担当していたんですか？

副：私は万華鏡づくりを担当していました。万華鏡といってもよくある万華鏡ではなくて。分光シートといって、光が入ると虹ができるシートを使います。それを活かした万華鏡を作って、皆で飾り付けをして。覗くとキラキラして最高ですよ。

M：子供たち、絶対に楽しいし喜びますよね。

副：それが私の教員になろうとした原点ですからね。

M：やりましょうよって言われても…これ以上仕事増やすなよって感じですよ（笑）

副：（笑）今、全然余裕がなくて。ホント、あとちょっと時間が…余裕があれば、あれもやってみたい、これもやってみたいってあるんですけど。

M：先生の子供たちにやってあげたいこと、なにかしらこちらで土台作りをお手伝いして、先生がポンってやってくれるという感じであれば、先生になにかおもしろいことお願いはできますか。

副：いつでもOKですよ。そう、あとはどの時間でやるか…とかの細かい話で。お弁当箱があったとしたら、そこに情報教育も、外国語教育も…いろんなことをこれもやりましょう、あれもやりましょうって入ってくるので、ぎゅうぎゅう詰めのお弁当箱なんですよ。そこに科学体験教室はどこに入れようかって話になります。

M：じゃあ放課後とか、長期休暇ってなると今度は先



生方の負担がありますもんね…。

副：例えば地域とのつながりもとても大事なんですけど、地域のイベントは土曜日とかで。そうすると土曜日に教員を出勤させるのは、働き方改革の上では、なかなかお願いしづらい状況になってきています。そこがジレンマなんですよ。では、イベントに出な

くていいんですかって言われると、子供たちにできることが減ってしまうし…。いろいろと参加の仕方を考えていかないといけないんですよ。

M：例えば外部の先生に何かをお願いして、それで引率なりをしてもらおう…ということは、アリなのでしょうか？

副：ありだと思います。今中学校の部活動を地域の指導者の方を中心として、本格的な部活を行う…または、本格的ではなくてもサークル的に楽しくやるような様々な選択肢を八王子市で進めようとしています。

M：放課後の空き教室やグラウンドを使ってもらうことは、小学校としてはそんなに嫌じゃないですか？

副：実施方法を調整する必要があるですが、有効活用してもらうことは大歓迎ですよ。

M：もし地域へアウトソースすることで、子供たちに何かを教えたいという指導者がいて、それで先生方の手間が減るのであれば、かなり合理的な気がします。それに学校で習い事みたいなものができる場所があれば、保護者も学校帰りに習い事をしてくれるというのは保護者が働く家庭では想定もなくとてもありがたいですよ。

副：中学校の部活動のあり方が変わっていく流れで、小学校も中学校に合わせていく形になると思います。今までにない取り組みですから、いろいろと調整をしながらやっていくことになると思いますね。

学校と保護者の理想的な関係。ポイントは人材バンク！？

M：山川先生が思う、理想的な学校と保護者の関係性ってどう思いますか？関係、距離感とか。保護者の時間を取らせたくない…とか、先生の仕事を増やしたくないってお互い腫れ物に触るような感覚があります。

副：適当な距離感って難しいですね。なんて言うのか、必要な時に協力できる方が、がっと集まってくださって、みんなで協力してやってもらえるというのが理想かなと思っています。担当を決めて、あなたは〇〇係だからこういう仕事をお願いしますとなってしまうと、それをやらなければならないとか、いつやるかとか、どういった風にやったらよいかって話になって、結局保護者の方の負担になってしまうと思うんです。学校としてはいつも何かをやってほしいわけではなくて。例えば行事の時とか人手が必要な時に、お手伝いしてくれる方がいないかなって思うことがあるんです。そんな時に保護者の方で手を挙げてくださる方がボランティア的に集まってくくださるのが一番理想かなと思うんです。

M：なるほど。今のみやかみ会の体制見直しにも当てはまる話ですね。

副：この地域は、いろいろな地域からニュータウンに集まってきていますよね。どこにどんなことを得意としている方がいるのかが分からないんで

す。例えば子供にコマ回しを教えるのは、この方に声をかければ良いとか、畑をやるならこの方に相談しようとか。いろいろと得意な分野がある方がいらっしゃると思うんです。でも誰にどんな話をすればそのような方と繋がるのか、分からないんですよ…。

M：地域にもやってあげたいという気持ちがあっても、なんだかつながっていかない…つながりづらいというのは感じますよね。いろいろな得意を持った方、たくさん地域にいらっしゃると思うんですよ。

副：だからこそ、人材バンク…のようなシステムや、つなげてくれる方がいらしゃると、とても嬉しいですね。

M：今までの組織が縦割りの傾向もあって。どの組織の人がやる？みたいな話で終わってしまう。でも最終的には子供たちのためにという想い是一緒ですし、誰かが「みんなで一緒にやればいいじゃん！」と旗振りできれば良いですね。

副：来年度に向けて学校としても組織をどうしていくかという話も行っていくので、その中で学校の組織体制も見直して行ければと思います。

M：可能な範囲で学校のことを教えていただければ、私たちも一緒に変わっていけたらと思います。

副：お互いタイアップしてやっていきましょう。想いやパワーをうまく活かしていきたいと思っています。



インタビューを終えて

山川先生は宮上小学校に着任されて4年目になります。「いつでもどこでもいる山川先生!」というくらい、山川先生はどこでもお見かけする存在。ダンスクラブの発表会、英検会場、ラジオ体操…と、週末や朝の活動にも関わらず、現地に来ていらっしゃいます。

常にニコニコしている印象がありますが、実は裏の顔があるんじゃないの?と「ジギルとハイド」のような展開をこっそり期待しながらインタビューに挑みました。

すると長い社会人経験や、教員にずっと想いを馳せていらっしゃったお話。そして何より、子供たちへの熱い想いをおもちの山川先生の本当の顔を見ることができたことが大きな収穫でした。

ニコニコの裏には、熱く子どもたちを想う気持ちがあったんですね。

また、私たち保護者と学校の関わり方においても、「できる人ができることをやる」という理想的な活動方針に共感をもってくださっていました。

私たちも気持ちよく「活動できるときに活動できる人が参加する組織に生まれ変わっても良いんだな…」と、先生たちのご理解が、後押ししてくれているように感じました。

そして【活動を見直す=廃止する】ことではなく、学校（つまり子供たち）に本当に求められている活動を、求められているタイミングでお手伝いできるという新しい関係を築いていくこと。それが何よりもこれから私たち保護者に求められていることだと噛み締めながら、インタビューを終えさせていただきました。

たくさんお話を聞かせてくださった山川先生、ありがとうございました!

✉ ご意見・お問い合わせ

mykm.renraku@gmail.com

